

御宿海岸の魅力を 最大限に活かすために

工学院大学建築学部 教授 下田明宏



下田明宏教授の プロフィール

株式会社ディー・エム 代表取締役
MLA技術士（建設部門）

1955年 東京都文京区生まれ
1979年 東京大学卒業（緑地学専攻）
1982年 ハーバード大学デザイン大学院修了（MLA）
1982年 The SWA Group, Boston, MA
1988年 (株)ディー・エム 取締役副社長
1995年 (株)ディー・エム 代表取締役
1998年 早稲田大学理工学部建築学科／講師
2002年 東京大学農学部生物環境科学課程／講師
2012年 工学院大学建築学部まちづくり学科／教授

この報告書は、平成28年7月20日に開催された第6回調査特別委員会の参考人である工学院大学下田教授のプレゼンをまとめたものである。

みなさん、こんにちは。改めまして、工学院大学の下田でございます。

今日は、「御宿海岸の魅力を最大限に活かすために」という題で進めて行きたいと思いません。(図1) 目次として3つございます。

1つは世界中にある魅力的なビーチの分類と、その中で御宿海岸の位置づけはどういったところにあるのか、私の考えを紹介したいと思います。

2つ目は、3月に議会で否決となりましたが、御宿海岸利活用計画という計画が作られました。我々の研究室の研究成果を参考にされたということも伺ったので、内容を拝見しましたが、我々が研究してきたことと方向が違うということで、利活用計画の中で何が問題なのかを説明させていただければと思います。

最後に、御宿海岸ではどういう方向性で海岸を整備していったらいいのかということについて、私の考えを述べさせていただきたいと思いません。

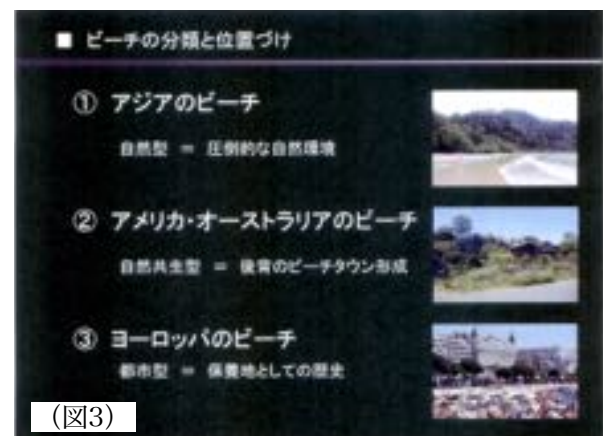
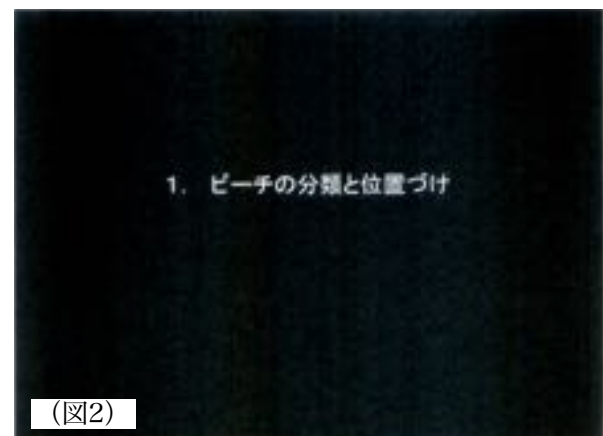
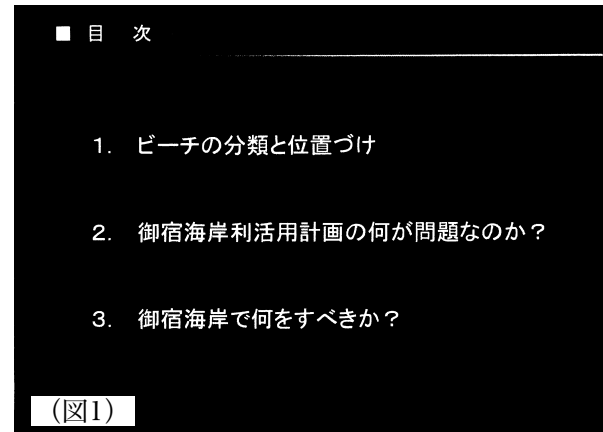
それでは最初に、ビーチの分類と位置づけです。(図3)

非常にざっくりとした分類で、まずアジアのビーチです。アジアのビーチの特徴は、圧倒的な自然環境に恵まれているということです。

それから、新大陸、アメリカやオーストラリアのビーチ。自然共生型、ビーチタウン型とも私は呼んでいますが、ビーチの後背地にビーチタウンが形成されているものです。私の研究室では御宿町は、こういったビーチを目指したらいいのではないかと提言しています。

最後にヨーロッパのビーチ。これは都市型で、古くから保養地としての歴史があり、かなり高密度で利用がされているビーチです。

これらすべてが魅力的です。どれがいいとか悪いとかじゃなくて。歴史があつて、環境があつて、それに応じたビーチのあり方があるということです。



すこし、それぞれのビーチの特徴を紹介していきますので、雰囲気として味わっていただければと思います。(図4)

(図5)、(図6)は、アジアのマレーシアのランカウイ島のビーチです。

非常に緑が濃くて、すぐ近くに猿や珍しい鳥類がいるというようなビーチです。別荘やホテルがありますが、非常に数が少ないです。そして、後背地の集落は非常に規模が小さい。また住民たちは、汚水を水に流すという発想すらないですから、海に汚水が流れる危険性もなく水質は比較的きれいです。

(図7)はバリです。非常に自然度が高いビーチです。



私がビーチで写真を撮っていたら、ここはホテルのプライベートビーチですが、おかまいなしで、突然漁師たちが、漁をはじめ、ものすごく魚が獲れました。彼らの生活と我々の観光が混ざったとても面白いビーチです。(図8)

(図9)は、バリのビーチの後背地にあるホテルのビーチクラブです。

海では、ちょっと水に浸かるくらいで、ホテルの淡水プールで泳ぎます。またそのビーチクラブには、レストランやバーがあります。ビーチクラブも、アジアの海岸では非常に特徴的な施設だと思います。

アジアのビーチの特徴をまとめると、圧倒的な自然環境に恵まれており、豊かな植物相や動物相があるということです。それから下水道は未整備ですが、集落の規模が小さいので水質は良好であると。また、未開発が故に、漁業や非日常的な文化体験、例えばバリですと伝統的なお祭りが毎日のようにありますので、そういったことも体験できます。さらにビーチの利用率は極めて低いということが挙げられると思います。(図10)



■ アジアのビーチ : 自然型

- ・ 圧倒的な自然環境(豊かな植物相と動物相)に恵まれている。
- ・ インフラは未整備であるが、集落の規模が小さく、汚水の処理方法も異なるため、水質は良好である。
- ・ 非日常的な文化体験(祭り、漁業等)
- ・ ビーチの利用密度は、極めて低い。

(図10)

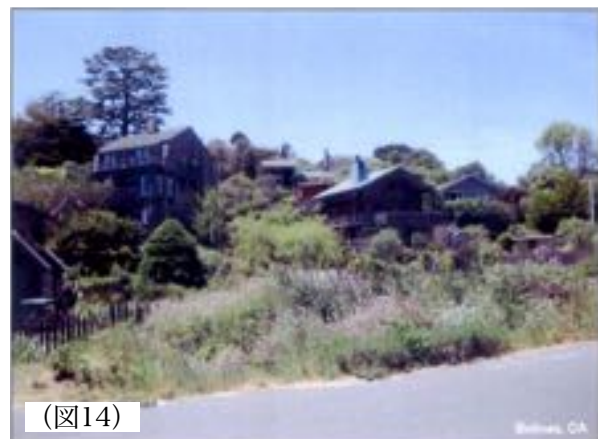
次に、アメリカ、オーストラリアのビーチです。まずアメリカのビーチです。(図11)

(図12) は、ミュアービーチという、サンフランシスコの北にあるビーチで、自然が非常に厳しく保護されています。

後背地の森の中には、小さい家がぼつぼつと建っています。(図13)

定住人口は非常に少ないですが、週末になると、サンフランシスコから多くの別荘の住民が訪れるという街です。

(図14) はポリナスです。ここも定住人口は非常に少ないですが、週末になると、サンフランシスコから人がやってくるという街です。街では、レストランとか、不動産とか、バーなどの施設があり、若い人たちが働く場所があります。



(図15) は、スティンソンビーチのレストランです。大事なことはこれがビーチにではなく、後背地の街の中にあるということです。砂浜での商業行為は禁じられています。



(図15)

次にオーストラリアのビーチです。(図16)

(図17)、(図18) は、ローンというビクトリア州のビーチタウンです。ビーチの向こう側は、森に見えますが、実は住宅地です。

木々の間で海に敬意を払って住んでいるということです。大事なことは、ビーチに構造物、旗、サインなどの目立つものがないということです。

ただ唯一、ビーチタウンに特徴的な構造物があります。それはボードウォークです。(図18)

ボードウォークは人工構造物ですが、砂浜の一番上部にあって、街から砂浜に降りなくても、砂浜が体験できます。

海岸を歩くということが海水浴をすること以上に彼らの生活の中に根付いています。

ボードウォークを境界にして、浜側に海浜植生、陸側に内陸性の植生があり、海浜という空間の構成が非常に特徴的に表れています。



(図16)



(図17)



(図18)

(図19) は、ローン商業施設です。

最近のデータではこの街の人口は1,042人です。

ただし、メルボルンから車で1時間半ほどのところで、海のシーズンの1月の週末には人口が約2万人もなります。その人口に対応する商業施設があるということです。

注目すべき点は、商業施設の高さが抑えられているということであり、非常に大事なことだと思います。



(図19)

(図20) は、フランクストンです。メルボルンの近くにあり、きれいな街です。

高級な住宅地で、非常にきれいなボードウォークがあります。海岸にボードウォーク以外の構造物は設置されておらず、海岸では砂と海浜性の植物しか見えていないという景観です。



(図20)

(図21) は、シドニーの南側に位置するサーフィンで有名なボンダイビーチ近くのビーチウォークです。

ここでは、ビーチの人よりビーチウォークにいる人の数のほうが多いくらいです。ビーチは冬である6月から8月くらいまでは使えませんが、ビーチウォークは年間を通じて歩くことができます。御宿でも海水浴客が減少していることは大した問題ではなく、海を楽しみながら歩く施設があれば、みんながそこを歩くと思います。



(図21)

アメリカ、オーストラリアのビーチの特徴は、まず、自然環境を保全するための厳しいルールがあるということです。もう1つは、新大陸の国は、都市計画の段階で、排水施設が下水本管に接続できないところでは、合併浄化槽がないと建築許可が下りません。したがって、水質はアジアよりはるかに良好です。

そして、ビーチの後背地に、半定住型のビーチタウンが形成されていて、商業、特にサービス業が盛んです。

また、ビーチにおける商業行為、工作物の設営は厳しくコントロールされています。

砂浜に行くと、非常に文字が少ない。ビーチの利用率は中程度ですが、通年利用されているということがあげられると思います。(図22)

次に、ヨーロッパのビーチを見てみたいと思います。(図23)

(図24)は、フランスのカンヌです。ここは古くからの保養地です。自然はなく緑は人工的に植えたものです。典型的なヨーロッパのビーチであり、ブルーフラッグビーチです。

■ アメリカ・オーストラリアのビーチ : 自然共生型

- ・ 自然環境を保全するための厳しいルールがある。
- ・ 都市計画の段階で、汚水の海洋流入が防止されており、水質は極めて良好である。
- ・ ビーチの後背地に、半定住型のビーチタウンが形成され、商業、特にサービス業が盛んである。
- ・ ビーチにおける商業行為、工作物の設営等は、厳しくコントロールされている。
- ・ ビーチの利用密度は中程度だが、通年利用されている。

(図22)



(図25)、(図26)は、フランスのニースです。ここもブルーフラッグビーチで、主役は街、都市です。都市が主役で商業施設があり、道路があり、ビーチがある。ビーチには緑が全くありません。カンヌと同じですけれども、自然植生は全くありません。

(図27)は、地中海のマルタ島です。やはり、ブルーフラッグビーチで後背地に非常に大きな街があつて、その前にビーチがあり、非常に高密度で使われています。



ヨーロッパのビーチは、都市型といっ
ていいと思います。スペイン、フラン
ス、イタリア、それからギリシャ、トル
コ等、ヨーロッパのビーチは、古くから
の保養地であって、後背に結構大きな都
市集積があります。利用密度は非常に高
いと言えます。

ヨーロッパのビーチの問題は、インフ
ラの老朽化により、日常的に水質汚染の
危険性が高いということであり、こうい
う背景の中で生まれたプログラムがブル
ーフラッグです。

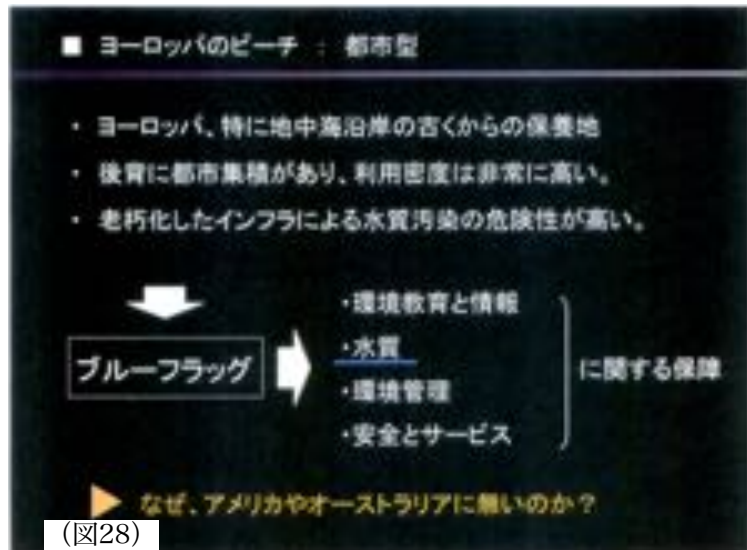
ブルーフラッグは、環境教育と情報、
それから水質、環境管理、安全とサービ
スの4つのカテゴリで保証をしますとい
うものです。33の認証基準がありますが、
特に、水質に関する基準が一番多い
ということがいえると思います。(図
28)

なぜ、アメリカとオーストラリアのビ
ーチには、ブルーフラッグがないのでし
ょう。(図29)

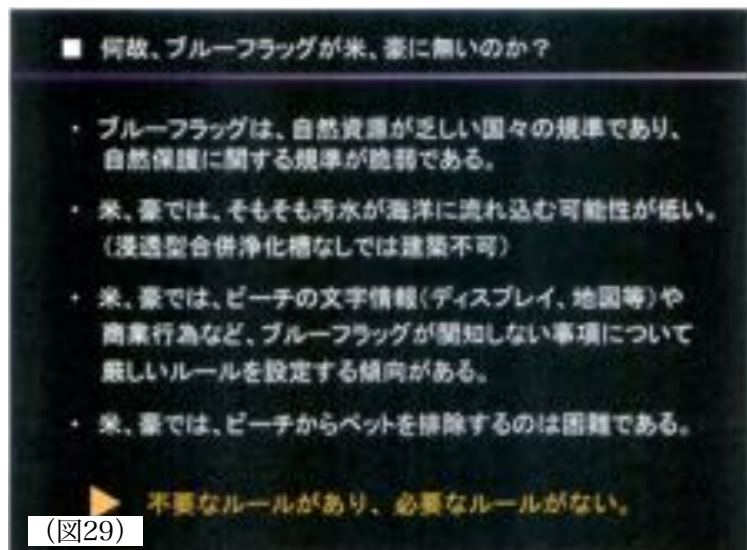
ブルーフラッグは、もともと自然資源
が乏しい国のものなのです。したがっ
て、自然保護に関するルールが非常に脆
弱です。自然があればそれを教育に使い
なさいという基準はありますが、自然を守りな
さいという基準はありません。

それから、アメリカとオーストラリアのよ
うな新大陸では、そもそも都市計画ととも
に作られた国なので、汚水が海洋に流
れる危険性がまずありません。したがっ
て、オーストラリアの友達に言わせると、
水質についてはブルーフラッグの基準
より、はるかに厳しい基準を持っている
そうです。

もう1つブルーフラッグには、「ここはブル
ーフラッグビーチですよ」、「地図ですよ」、
「こういうものがありますよ」と文字情
報を示す基準がありますが、アメリカ・
オーストラリアの人たちは「ビーチにな
ぜ文字が必要なのか」、ということ
で、文字を非常に嫌います。



(図28)



(図29)

それから、ブルーフラッグでは、商業行為の
ルールは特にありませんが、アメリカ・オース
トラリアでは、ビーチ上の商業行為を非常に嫌
います。ブルーフラッグが関知しない事項につ
いても、非常に厳しいルールがあります。

また、ビーチからのペットの排除が、この2つ
の国では非常に難しいと思います。

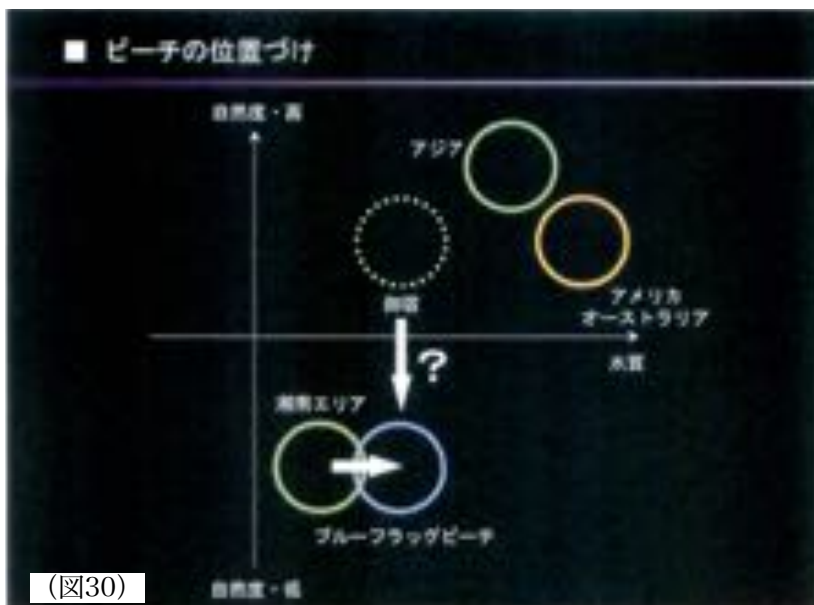
以上のような理由があるので、アメリカやオ
ーストラリアにとって、ブルーフラッグは、不要
なルールがあり、必要なルールがないプロ
グラムだと認識しているために、ブルーフラ
ッグビーチとが言えると思います。

縦軸を自然度の高低、横軸を水質の良さとい
うことでビーチの位置づけと考えると、ブル
ーフラッグビーチは、水質はそこそこで自然
度が低いビ

ーチ、という分類ができると思います。

それに対して、アメリカやオーストラリアのビーチは、水質は良く、自然度も高い。アジアのビーチは、自然度は一番高いわけです。こういう中で、後背に非常に大きな都市集積があって、水質はそれ程でもないが水質を良くしていきたいという湘南エリアがブルーフラッグビーチを目指すというのは、非常に合理的だと思います。

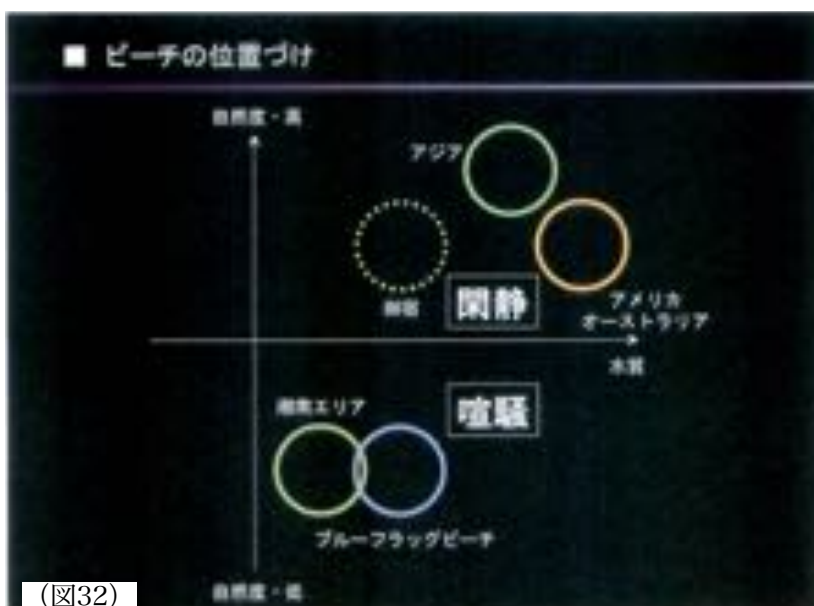
ところが、御宿は、私が見た限り、海浜部にハマボウフウ、ハマヒルガオなどの海浜植生があり、ウミガメも来るし自然度の高いところでは、御宿は、アメリカやオーストラリアのビーチのような閑静で、落ち着いた、大人のビーチを目指すことがいいのではないかと考えます。(図30) (図31)、(図32)、(図33)



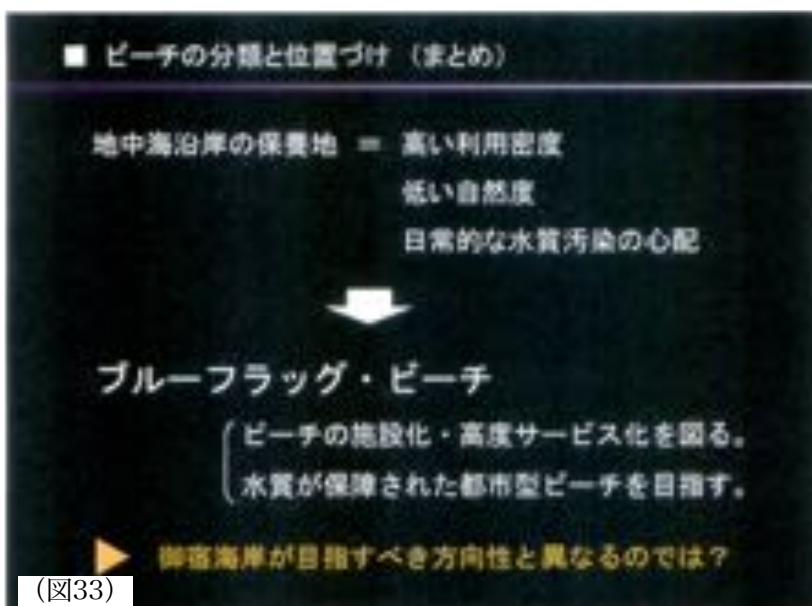
(図30)



(図31)



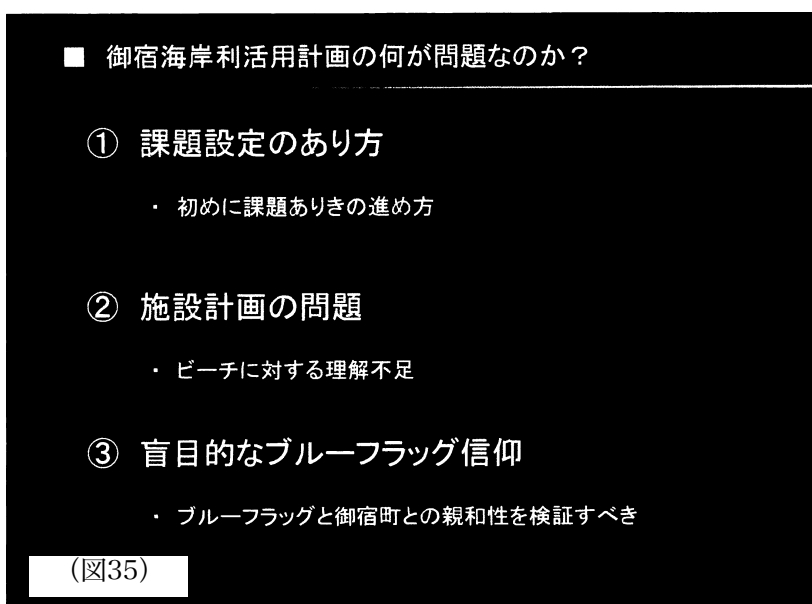
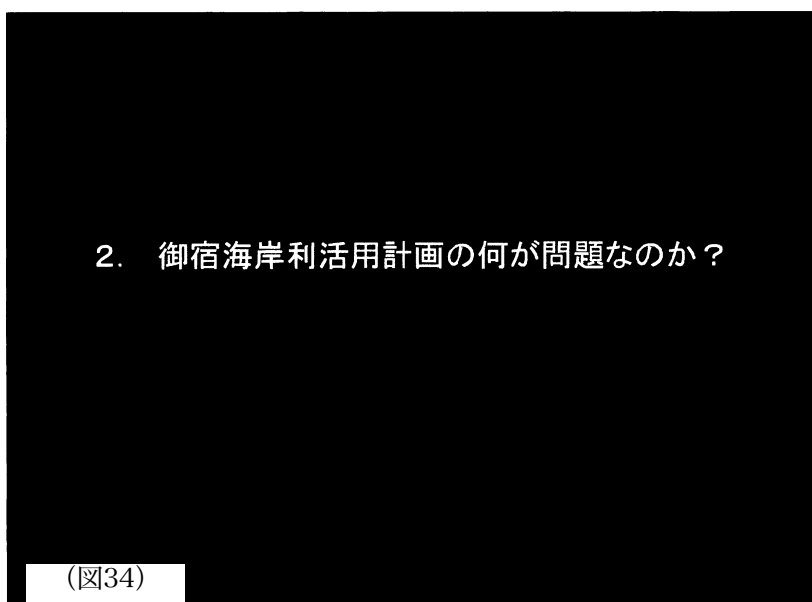
(図32)



次に目次の2番。御宿海岸利活用計画の何が問題だったのかというところをお話しします。(図34)

大きく3つ問題があると思います。1つは課題設定のあり方です。

2つ目は施設計画の問題。3つ目は盲目的なブルーフラッグ信仰ということがあげられます。(図35)

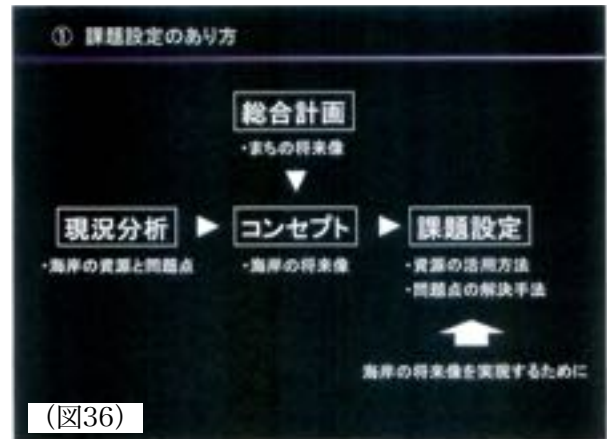


本来、課題設定のあり方というのは、まず町の将来像、総合計画を踏まえて、どういう海岸になるべきだとコンセプトを設定して、その将来像を実現するために、課題設定するのがセオリーだと思います。(図36)

海岸利活用計画(図37)では、課題が、総合計画や分析とは別に、突然落下傘的に「これをしましょう」と出てきます。

例えば、海岸全体のバリアフリー化が実現すべき課題として挙げられていますが、私は、御宿の海岸に30年通っていますが、海岸全体をバリアフリーにしないといけないという声を一度も聞いたことがありません。バリアフリー化は事業費もかかり、維持管理も大変です。すべての施設を作り替えなくてはならないくらいなのに、なぜこれが突然出てきたのか疑問です。

バリアフリー化することは、別にいいと思いますが、1つのことを得ると、1つのことをあきら



めなくてはいけないということがあります。例えば、スロープを造らなくてはいけない。今、勾配の基準が5%ですから、3mの高低差を解消するスロープは60mの長さになります。60mのスロープを造るには、ものすごく大きな面積の砂浜をつぶさなくてははいけません。

さらに、「御宿町のビーチは陸にも海にも、人工物が目立たない」と計画にはありますが、実は、30年前から、この人工物をどうしようという





(図38)

のが、議論に上っていたわけです。高層マンションや海の家などです。「人工物が問題ではないですか、御宿では」というところからスタートしないとそれ以上議論が進みません。

あるいは、「人工構造物は目立たないように作らしましょう」、とありますが、利活用計画の中にある施設整備計画は、全部目立つように作られている。課題の設定が唐突であって、無理があるように感じられます。

施設計画の問題を具体的に見ていきます。例えばここに、休憩施設というのがあります。中央海岸の駐車場に休憩施設を提案しようということです。老朽化したトイレ、シャワー室、警察詰所、案内所、倉庫を撤去して、ここがビジターセンターになる。本当にこの場所がビジターセンターで

いいんですか。その辺が突然決まってしまう。

またビジターセンターの中には、トイレ、シャワー室、警察詰所、案内所、倉庫のほかに、情報を掲示するロビーを配置することとなっていますが、私はこれまでに、アメリカ、オーストラリア、南米、アフリカ、ヨーロッパを見てきて、飲食機能のない休憩施設は見たことがありません。人が休憩するということは、そこでいい飲食をするということだと思います。

お茶を飲む、ワインを飲む、そういった飲食機能がない休憩施設はありえないと思います。飲食ができない箱の中で、どうやって休憩するのかというのが疑問です。(図38)



(図39)

さらにここには屋上展望台、展望広場とありますが、私はビーチで展望広場を見たことがありません。

展望広場設置の目的は、そのままでは見晴らしがきかないけれども、高いところに登ると展望が開けるといことだと思えます。

しかし、御宿の標高が2 m、3 mのところで、屋根の上に登って、どれだけ展望が開けるのか。全く意味がないのではないかと思います。(図39)

(図40)、(図41)は、ローンのビーチパビリオンです。ローンのビーチでは海の家がない代わりに、ビーチパビリオンがあります。ビーチパビリオンでは、すばらしい食事が提供され、十分海の風景が楽しめます。通る人を見たり、座って海を眺めたりというのが、休憩する意味だと思います。わざわざ高いところを造る必要は全くないと考えます。

また砂浜に降りる車いす用の斜路がなぜ必要なのか疑問です。車いすの方が斜路で砂浜に降りてそれから先どうすればいいのでしょうか。なぜ、こういうハードが先に決まるのかわかりません。ブルーフラッグ認証を受けるための33基準の中に、斜路が必要だとありますが、斜路を作るとその分だけ砂浜を埋めなくてはいけなくなります。考え方を変えて、この場所にあったと思われる砂丘を元に戻せば、貴重な海浜植生を復活させることができるのに、なぜこういう構造物を砂浜に作らなければならないのか、非常に疑問です。

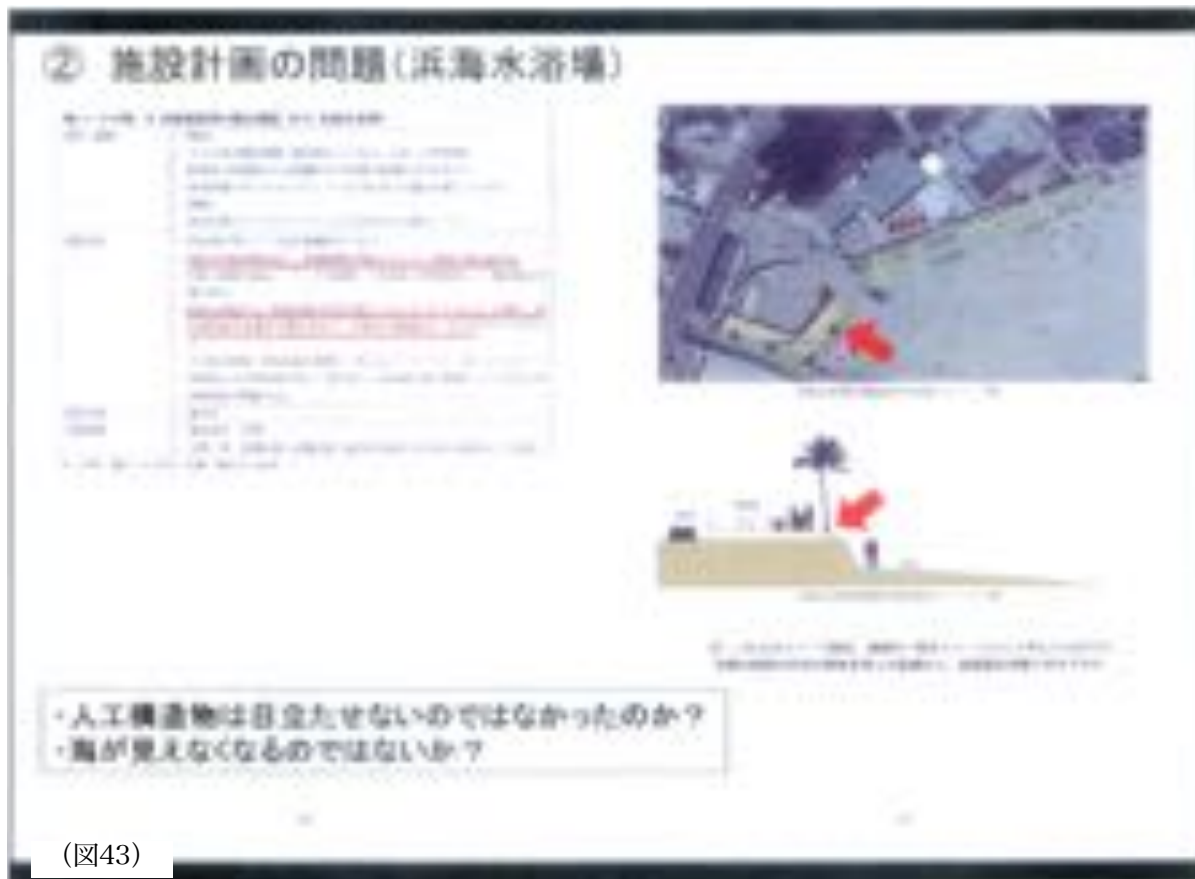
(図42)



② 施設計画の問題(中央海水浴場)

なぜ、斜路が必要なのか？
貴重な砂浜が埋められるのではないのか？

(図42)

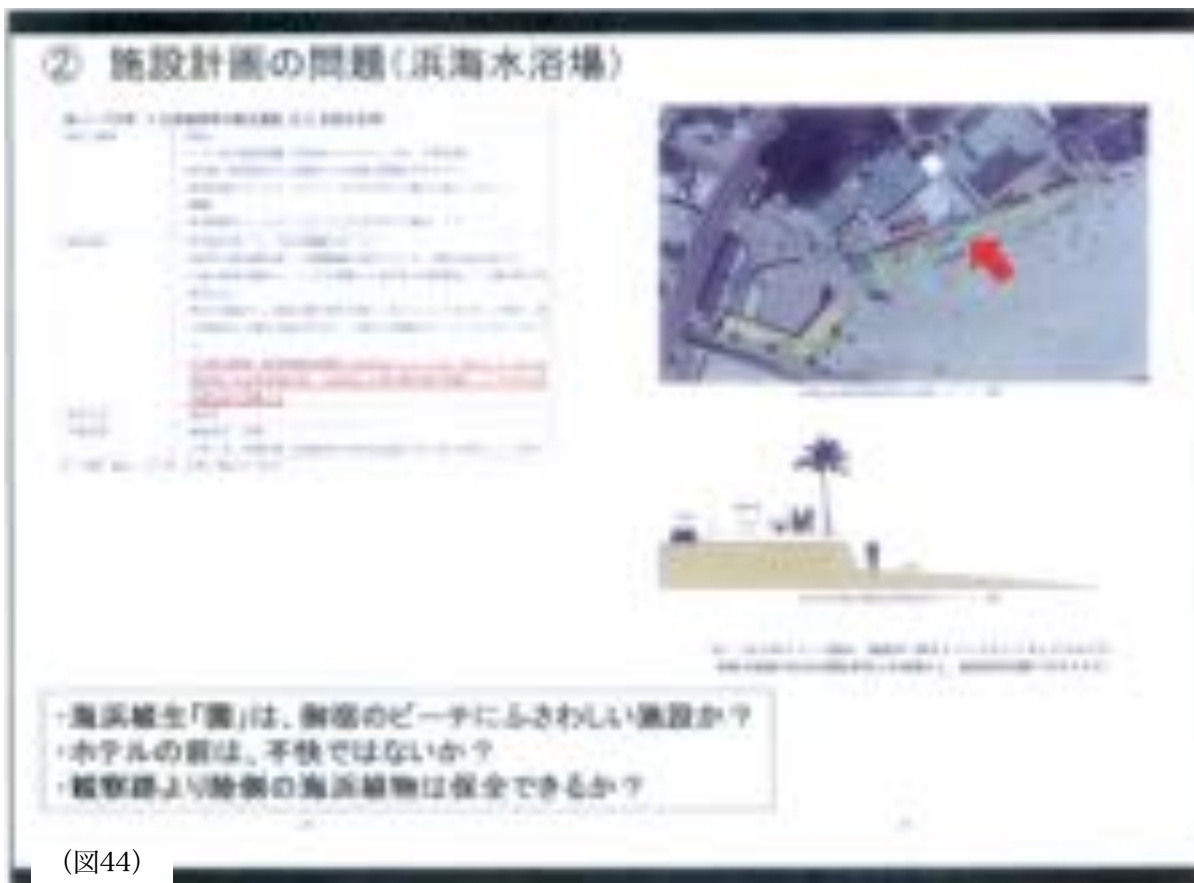


(図43)

(図43)は、浜海水浴場ですが、ここにも展望広場を作るといことです。ここでは、周辺の道路から、新設広場の存在が感じられるようにするとあります。人工物は目立たないようにするのではなかったのではないのでしょうか？

つまり、海と砂浜が目立たなければいけないのであり、広場が目立っても意味がありません。広場の一部は、堤防の高さを超える盛り土を行い、

中高木の植栽を行うとしていますが、駐車場は水をかぶってもいいわけですから、車の存在をなくして、陸から海がぱっと見えるように、この場所はむしろ下げたほうがよいのではないのでしょうか。これはコンセプトに反しています。人工構造物は目立たせないと書いてあるのに、海が見えなくなるのではありませんか。



(図44)

私たちの提案を参考にしているひとつだと思いますが、計画では、海浜植生園を整備し、その中央に自然観察路を整備するということになっています。(図44)

ただし、私たちはここにボードウォークを整備すると提案していますが、自然観察路とはいいません。私たちは、この場所の自然の砂丘に海浜植生が自然に復活することを望んでいます。「ここが園ですよ」「この中が観察路ですよ」というような、人工的な施設は作りたくありません。ここは大きな違いです。

また、この場所は海のホテルの前になり、プライバシー保護の対応も必要かと思えます。そのために、私たちの提案ではホテルとボードウォークの間にクロマツなどを植栽し目隠しとするとしていますが、計画ではその辺については何も触れていません。

海浜植生に関しては、観察路から陸側の海浜植

生は保全できるのか疑問です。おそらくこの場所に観察路ができたなら、海浜植生は育たないのではないかと思います。

これは下田ゼミの3年生が作った同じ場所のシーン(図45)ですが、ボードウォークを少し上げて造るとというのがポイントです。なぜかというところ、この場所にある防砂ネットをとってしまい、ボードウォークを防砂ネットの代用にします。防砂ネットがあると、そこまでは内陸性の植物が侵



(図45)



(図46)

入し、生育するので陸になってしまう。そのため防砂ネットをとって、海浜植物の生育できる環境域を広げたいと考えています。

ホテルとの間は3mの幅をとっていますが、プライバシー保護の問題がありますのでここにクロマツ、シャリンバイなどの海浜性の植物を植えて、ホテルの存在を隠します。

ハマヒルガオなどの海浜植生を復活させたいと考えて、私たちが1月に提案しましたが、海岸利活用の提案とはかなり趣旨が違うのではないかと

思います。

最後に岩和田の海水浴場ですが、計画では堤防の線に合わせて、ウッドデッキをかき上げるわけです。この場所は、陸がかなり高くなっているのになぜここで50cm、60cmのかき上げが必要なのか全く書かれていません。陸側からは海が見えなくなってしまうのではないのでしょうか。

(図46)



(図47)

また、この場所にも設置するとされている情報掲示板ですが、計画では、色々な情報表示がなされるとしています。私は、看板表示は最小限にすべきではないかと考えています。(図47)

アポロ・ベイでは、サインはQRコードも使っています。(図48)

これは情報量が無限大です。スマホを近づけて、色々な情報が得られます。しかも目立たない。文字が嫌いな国では、こういうものを積極的に使っているということです。



(図48)



(図49)

そして、岩和田駐車場から砂浜に下りる斜路は、なぜ必要なのか。ここでは、少なくとも40~50mの斜路が必要になってきます。貴重な砂浜が潰されてしまうということになります。ブルーフラッグの認証には、1つの自治体について、最低1か所のスロープが必要というのが条件であり、浜も中央も岩和田も、3つ全て斜路を持たなくては行けないということではありません。なぜ、基準以上の施設整備をしようとするのか理解ができません。(図49)

は無関係に歩ける道ができるようにしようという提案です。

(図50)は、下田ゼミの3年生が作り、1月に提案した岩和田海岸のモデルです。

この問題は、駐車場のサーファーの車が後ろのドアを開けてボードの出し入れを行うことで、駐車場の海側の通路が全く使えなくなってしまう、一般の人が歩ける環境でなくなってしまうことです。そのため、この場所の歩行者動線をきちんと確保したうえで、植栽で2つの空間に分けて、きれいなフェンスやベンチを作り、駐車場と



(図50)



(図51)

最後に、別にブルーフラッグを目の敵にしているわけではないのですが、ブルーフラッグを認証されると旗を立てなくてはなりません。これは、オーストラリアやアメリカでは非常に困難です。

旗や看板などの喧騒的なものを表示するという事は、海が見えなくなるからです、そういうものを「よし」とするか、「よくない」と考えるか、その辺を考えなくてはなりません。

また、一定の役割は果たしたと思いますが、より高い利用者のニーズにこたえていくためには、

やはり海の家のある方についても真剣に考えて行かないといけないと思います。確か海岸の30年来の問題だったと思います。これはぜひ考えて欲しい。

私の考えとしては海の家から、内陸型のビーチパビリオンに移行して、砂浜は砂浜として、商行為をしない場所として確保しておくことが望ましいと思っています。(図51)

最後に、御宿海岸で何をしていたかなく
てはいけないのかという提案を簡単にま
とめたいと思います。(図52)

まちと海の間を考えると、ブル
ーフラッグビーチは、都市があつて、
海があつて、その間にビーチがある。

近代以前の御宿海岸では、まちと海と
の間に、防砂林や湿地があつて、まちと
海の間には一定の距離がありました。(図
53)

それが、現代になって、まちがビーチ
の方に進出してきたわけです。(図54)

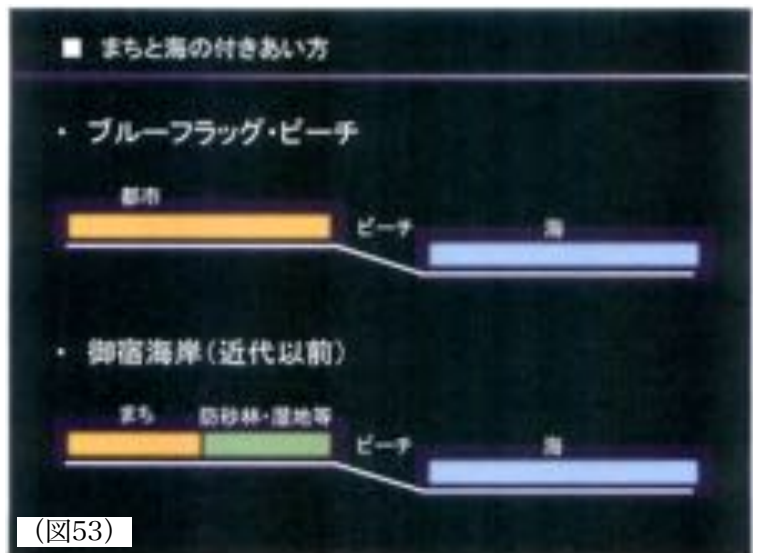
ヨーロッパの保養地では海に面して都
市が進出してくるようなビーチが形成さ
れた。今、御宿では、これほどではない
ですが、スロープとか、休憩所、サイン
とか、様々なまちの要素がビーチに出つ
つあります。御宿町の将来像をビーチタ
ウンにしていきたいと、もし考えるので
あれば、この状況はどうか。

都市型のビーチではなくて、これはも
う都市が主役のビーチ。これでいいので
しょうか。(図55)

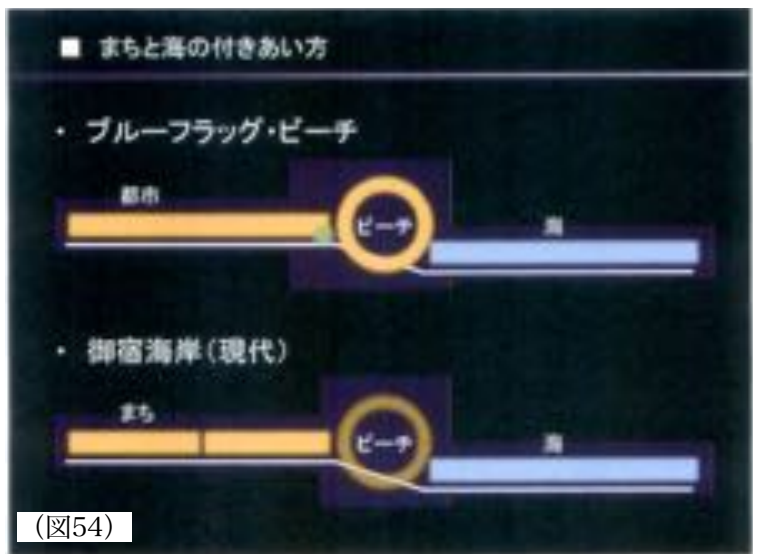
私は、御宿海岸の将来像は、海が主役
のビーチであるべきだと思います。ここ
に来たら海が感じられる。これを実現す
るためには、自然資源の保全をするとい
うのが一番だということになります。し
たがって、海が主役のビーチにするため
に、ビーチにおいて何をやるか。老朽施
設の撤去が必要でしょう。それから、ボ
ードウォークの整備。ボードウォーク
は、ただ歩く場所を作ることだけ
ではなく、歩く場所を限定させることで
海浜植生を保護し、砂丘も保護する。さら
に、年間を通じて利用者が海と付き合える
場所ができるといった、ビーチタウンに必



(図52)



(図53)



(図54)

要な施設です。

今、下田ゼミの4年生が卒論で、千葉の間伐材を使ってボードウォークができないか、実際に6mから10mくらい作ってみるという研究を行っています。そうすると、山の問題を解決しつつ、海の問題も解決できるということで、非常にいいと思います。

それから、海浜植物の保全・増殖ということで、本来あるべき海浜植生が見られなくなったところでは、それを増殖し、それを保全する。植えつける、増やしていくということは、それほどお金をかけずにできると思います。砂丘の保全もそうです。海浜植物の保全増殖と砂丘の保全、それとボードウォーク。この3つが非常に大事ではないかなと思います。また、それに関するルールづくりも必要だと思います。関連事業としては、清水川に家庭の雑排水が流れてきています。合併浄化槽を整備することにより水質が問題なくなるのではないのでしょうか。これも早くやっていただきたい。

それから、岩和田海岸の駐車場の整備をしないと、あの場所を歩くことが非常に不快です。

御宿は、浜から岩和田まで、1.5kmを歩けるということが、非常に大きな魅力になると思います。ですから浜の方ではボードウォーク。岩和田では、駐車場をもっと縮めて、砂浜と駐車場との間にきちんとした動線を確保することが必要だと思います。

そして、ビーチパビリオン。一定の役割を果たした海の家から、より高い質のサービスが提供できる施設が必要になってきます。そのためにも、ビーチパビリオンを計画していかななくては行けない。

1.5kmの間に別々に計画するのではなくて、海岸全体の中で、ここにはこういう施設を配置しよう、ここではこういうサービスを提供しよう、ここではこういうレストランを配置しようという



(図55)

■ 御宿海岸で何をすべきか？

海が主役のビーチにするために

ビーチにおいて	関連事業
① 老朽施設の撤去	① 清水川流域合併浄化槽整備
② ボードウォーク整備	② 岩和田海岸駐車場再整備
③ 海浜植物の保全・増殖	③ ビーチパビリオン計画
④ 砂丘の保全	④ 都市計画の見直し
⑤ ③④に関するルール作り	ほか

(図56)

役割分担を検討していけば非常によくなると思います。

また、都市計画の見直しは、非常に長期的になりますが、御宿の価値、ビーチの価値を高めるためには、やはり厳しい都市計画をセットすべきだと考えます。「簡単には開発できないですよ」ということが付加価値を高めるわけです。誰でもできますよということであると、どんどん質が悪くなっていってしまう。厳しさというのは、価値を維持することに繋がります。(図56)

最後、イメージということで、それぞれの取り組みの事例を紹介します。

ボードウォーク整備ということで、これは(図57) オーストラリアのビクトリア州フランクストンの街です。後ろにビーチタウンがあり、これがビーチです。旗もない、サインもない。非常にシンプルな、自然しか感じられないビーチ。そして、ビーチに行かなくても、海と砂浜が楽しめるボードウォークを整備している。

それから、海浜植物の保全・増殖ということでは、ローンでもやっています。(図58)

海浜植物が生育していないようなところは、増殖を行っています。海浜植生は、外房では、御宿より南に行っても、興津くらいで、それ以外に見られるところはない。自然植生がある砂浜というのは、御宿の非常に大きな魅力であると思います。

海が主役のビーチというのはこういう感じです。(図59) 山に見える場所は、実は住宅地です。住宅が見えないだけです。緑、海浜植生に囲まれて、みんなが海に対する敬意を表している。

(図60) も家はたくさんありますが、ビーチにいと見えません。



(図57)

ボードウォーク整備

Frankston, VIC



(図58)

海浜植物の保全・増殖

Lorne, VIC



(図59)

海が主役のビーチへ！

Lorne, VIC



(図60)

海が主役のビーチへ！

Lorne, VIC

これをグーグルで上から見ると、どのくらいの密度で家があるかという、(図61)です。

ほとんど家です。御宿台と同じような密度で家があっても、(図60)のように見えるということです。それは、海を主役にするために、みんなで厳しいルールをセットして、「高い建物は建てない」、「みんな低くしようよ」と。「それが海に対する敬意だ」ということです。

(図62) も大きなホテルでも、3層か4層です。一番、海に近い所では、本当は高く建てたい気持ちがあっても、抑えて低くして、海に対する敬意を表すというのが、やはり民度と言いますか、文化であり、海に対する敬意の表し方ではないかと思います。

以上です。ありがとうございました。



(図61)



(図62)

海が主役のビーチへ！

Lama, VIC

